

重要性高まるネガティブエミッション技術

<報告要旨>

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
研究戦略ユニット 研究戦略グループ マネージャー 兼
クリーンエネルギーユニット 次世代エネルギーシステムグループ
研究主幹 小林 良和

1. 大気中の温室効果ガスを回収し長期間にわたって固定するネガティブエミッション技術 (NETs) に対する関心が、近年国内外で高まってきている。産業部門や長距離輸送部門を中心に今後も化石燃料の利用が残り続けることが確実視される中、NETs の貢献なしにカーボンニュートラルを実現することは極めて困難である。各国は、長期的なカーボンニュートラルに向けた排出削減計画の中に NETs の活用をより明確且つ具体的に位置づけるべきである。
2. NETs には多種多様な技術が存在するが、商用化には時間がかかるものが多い。個々の NETs について、自国内における炭素除去量のポテンシャルの把握、正確かつ透明性の高い除去量の測定手法の検討、除去コストの削減、各 NETs の導入に必要なバリューチェーンの確立、周辺生態系への影響評価などに早期に着手する必要がある。
3. 本格的な NETs の導入には国際協力も欠かせない。まずは、NETs がカーボンニュートラルの実現に不可欠な手段であることに対する国際的な認識を広く共有すること、そして国際的に共有される MRV (測定、報告及び検証) 制度や炭素除去に対する認証制度、除去クレジット制度の確立に向けた準備作業を加速させる必要がある。併せて、国境を越えた除去プロジェクトとその NDC への反映を実現するための仕組み作りに向けて、今後政府間レベルでの協議を深めていくことが重要である。

以上

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp